

(R4.6.7 全校集会 校長講話)

みなさん、おはようございます。

本日の全校集会は、先日行われた県高校総体の報告が主な内容です。この夏、四国で開催されるインターハイに出場が決まったのは、現時点でバドミントン、新体操、卓球、ソフトテニスです。他にライフル競技部が広島県で開催される全国大会に出場が決まりました。水泳は24日から県大会となり、陸上、水泳は東北大会を経て全国大会が決まりますが、これらに続けるよう頑張ってください。

さて、先月の26日、本校卒で東京オリンピック男子バレーボール日本代表の高橋健太選手が、オリンピックが終わって初めての帰省に合わせ、顔を見せてくださいました。バレー部の皆さんは一緒に練習もしたようで、貴重な機会をいただいたと思います。オリンピックの事、高校時代の事、その他いろいろ話をしたのですが、印象に残っていることを二つ紹介します。

一つ目は、彼は金井中から本校に入学したのですが、入学当初は日本代表になるような選手には程遠く、バレーボールに向き合う姿勢も中途半端だったと言います。1年生の今頃でしょうか、監督の安部先生からこっぴどく叱られて、それで目が覚めた。その日のことを今でも鮮明に覚えており、詳しく話をしてくれました。それがきっかけで練習に真摯に取り組むようになり、めきめきと力を付けたそうです。それでも、大事な大会中にケガをして、全国大会への切符を逃したこともあり、決して順風満帆というわけではなかったようです。

練習と力（スキル）の関係をグラフにすると、右上がりの直線を描くことはなく、停滞と飛躍が繰り返しながら上達する、といった話もしました。子供のころに鉄棒で逆上がりができるようになったことを思い出してほしいのですが、コツをつかむまでには時間と労力が必要です。いわゆる停滞の時期です。ところが一回できるようになると、それまでできなかったのがウソのようにたやすくできるようになったことを覚えているでしょう。

また、なかなか本調子に戻らない停滞の時期のことをスランプということがあります。スランプの脱出法については、いろんな人がいろんなことを言っていますが、元大リーガーのイチロー選手は「スランプの対処法は対処しないことだ。」と話しています。一回一回を新しいことの連続と考え、ひたすら練習を積み上げることがイチロー選手のスランプ克服法のようなようです。

この「一回一回が新しいことの連続」という考え方は、たとえば10円玉を投げて表か裏かを調べるとき、表が3回連続で出たりすると、次はそろそろ裏なのではないかと考えたりします。この迷いはまさに非科学的で、4回目に表が出る確率は $1/2$ と変わりはないのです。4回連続で表が出る確率は $(1/2)^4 = 1/16$ ですから、16回に1回と珍しい現象ですが、1回1回に限れば確率は全て $1/2$ なわけで、イチロー選手はその事実を信じて迷う必要はないと言っているわけです。

私は、停滞の時期にいるときは、そのあと必ず好調の波が来ると信じることがいいのではないかと考えます。そして、「停滞と飛躍が繰り返しながら上達する」というのは、おそらく勉強についても言えることで、諦めず、投げ出さず、努力を続ける。そうすると、あーこういうことだったのかと一気に伸びる時が来るのだと思います。努力しているのになかなか伸びないと不安になっている人は、もうすぐ伸びる時期がやってくると信じましょう。勉強も部活も、まずは必死に努力を積み上げることです。

最後になりましたが、今回で部活動を引退することになった3年生の皆さん、お疲れ様でした。悔しい思いをしている人もたくさんいるでしょうが、コロナ禍の中でやれたこと、やれなかったこと・・・それらすべてに意味があったのだと気づくのはもう少し先のことかもしれません。追い求めたものが大きかった人ほど、今は喪失の中にいるのは当然です。そんな人は、無理をせず、時間の力を借りながら元気を取り戻してください。(1632字)